

# 放送教育の現状の把握とコース別に学んでおきたい教科について

北海道芸術高等学校

## 1. はじめに

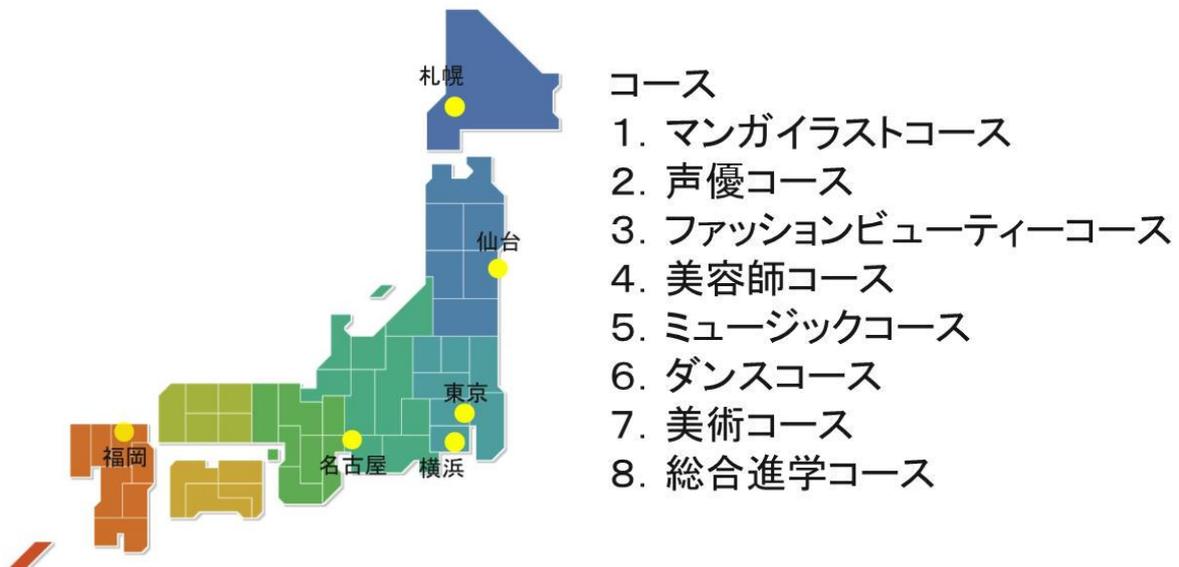
通信制高校にとって学びの方法は色々であり、自学自習から対面指導まで様々な形がある。放送教育の利用方法も様々な形があり、放送視聴による面接指導時間の減免を利用している学校や面接授業の導入の一環として放送教育を利用している学校、自学自習のために家庭での予習や復習を促す学校など放送教育の利用方法はさまざまである。

本校では、2018年度は放送視聴による減免を行っていた（インターネット講座やNHK高校講座の利用）。しかし、広域通信制高校に対するガイドラインの改定で、放送教育の利用方針に関してどのように順守すべきか学校内で検討をし、2019年度は放送教育による減免を利用せずに面接指導をしっかりと行う方向となった。

## 2. 研究目的

本校は全国に札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・福岡に拠点を設け教育活動を行っている。今回の放送教育に研究では、全国の生徒を対象に調査を行うことで、地域間での視聴方法（メディア）の違いや特徴があるかどうかを調査する。

また、多様なコースを設定しているためコースごとに高校生活で学んでおきたい教科について調査を行い、特徴があるのかどうかを調べる。



2018年度については、放送視聴による面接指導の減免を利用していたため、NHK高校講座を見ている場所やメディアについて調査を行った。

2019年度は放送視聴の夜面接指導の減免を利用していないので、定期試験の復習の手段として生徒にNHK高校講座の一部の科目のQRコードの配布を行い、NHK高校講座を復習として利用したかどうかについて調査を行った。

**3. 放送視聴利用時のアンケートと結果** 2018年度のアンケート調査の内容

- NHK 高校講座について見ているメディアはどれですか。当てはまるものに○をください。
1. TV・ラジオ放送                      2. スマートフォン・タブレット端末  
3. パソコン                                4. キャンパスの視聴会
- NHK 高校講座を見ている場所はどこですか。当てはまるものに○をください。
1. 自宅                                      2. 学校                                      3. その他(                                      )
- NHK 高校講座について、視聴報告の問題以外の放送は見ていますか。当てはまるものに○をください。
1. 見ていない                              2. 見ている (理由:                              )
- 放送視聴用 DVD について、見たことがありますか。当てはまるものに○をください。
1. ある (質問 A・B へ)                      2. ない (質問 C・D へ)
- A. あると答えた人に質問です。どこで見ていますか。当てはまるものに○をください。
1. 自宅                                      2. 学校                                      3. その他(                                      )
- B. あると答えた人に質問です。視聴報告の問題以外の放送は見ていますか。当てはまるものに○をください。
1. 見ていない                              2. 見ている (理由:                              )
- C. ないと答えた人に質問です。どこで視聴報告を取り組んでいますか。当てはまるものに○をください。
1. 自宅                                      2. 学校                                      3. その他(                                      )
- D. ないと答えた人に質問です。どのように視聴報告に取り組んでいますか。当てはまるものに○をください。
1. 教科書の利用                              2. ネットの検索                              3. 友人から教えてもらっている  
4. 何も見ないで解いている    5. その他 (                                      )
- メディアを使った視聴報告に取り組まなければならない理由として、当てはまるものに○をください。
1. レポートの提出枚数を減らすため                      2. スクーリングの授業時間を減らすため  
3. 試験を減らすため                              4. わからない
- 自分の選択したコースを勉強する上で、学んでおきたい教科は何ですか。当てはまるものに○をください。
1. 国語                      2. 社会                      3. 数学                      4. 理科                      5. 英語  
6. 保健体育    7. 家庭                      8. 情報                      9. 商業                      10. 書道    11. 特にない

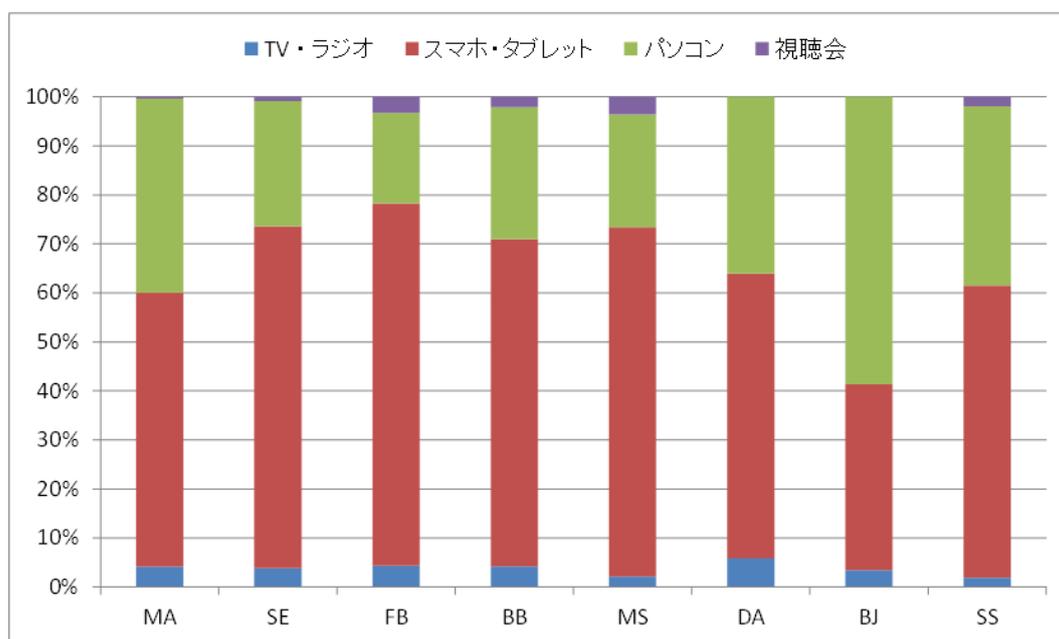
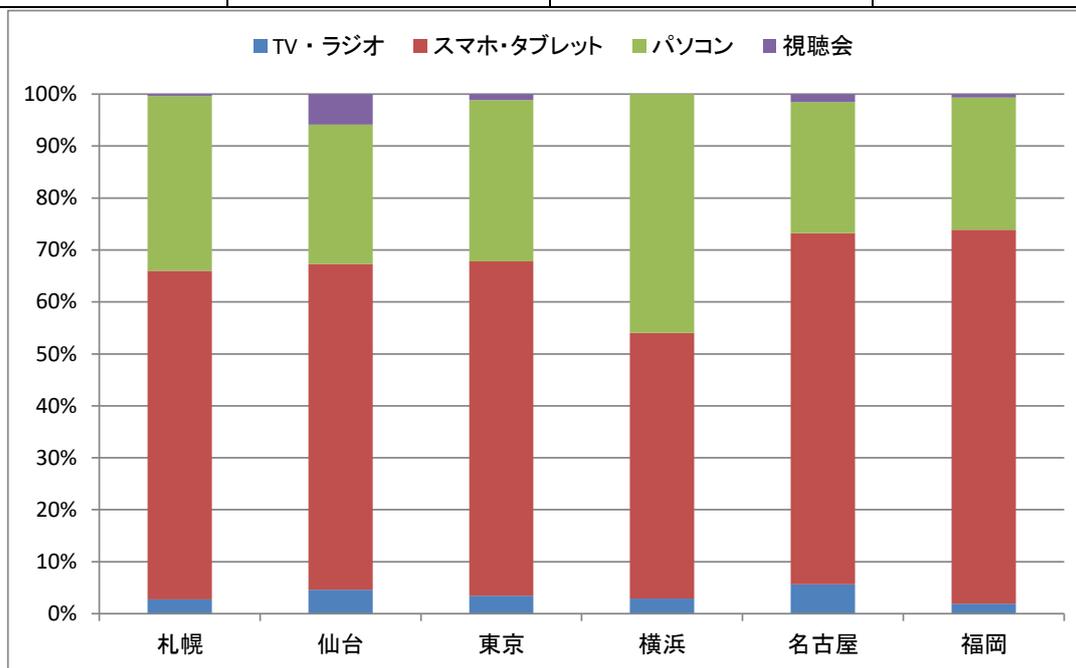
★アンケート調査人数 1186名

サテライトキャンパス別 調査人数	
札幌	256名
仙台	153名
東京池袋	87名
横浜	138名
名古屋	393名
福岡	159名

コース別 調査人数	
マンガ・イラスト	314名
声優	237名
ファッションビューティー	185名
美容師	142名
ミュージック	140名
ダンス	87名
美術	29名
総合進学	52名

● NHK 高校講座を見ているメディアについて

TV・ラジオ放送	スマホ・タブレット	パソコン	キャンパスの視聴会
46 名	760 名	355 名	18 名
4%	64%	30%	2%



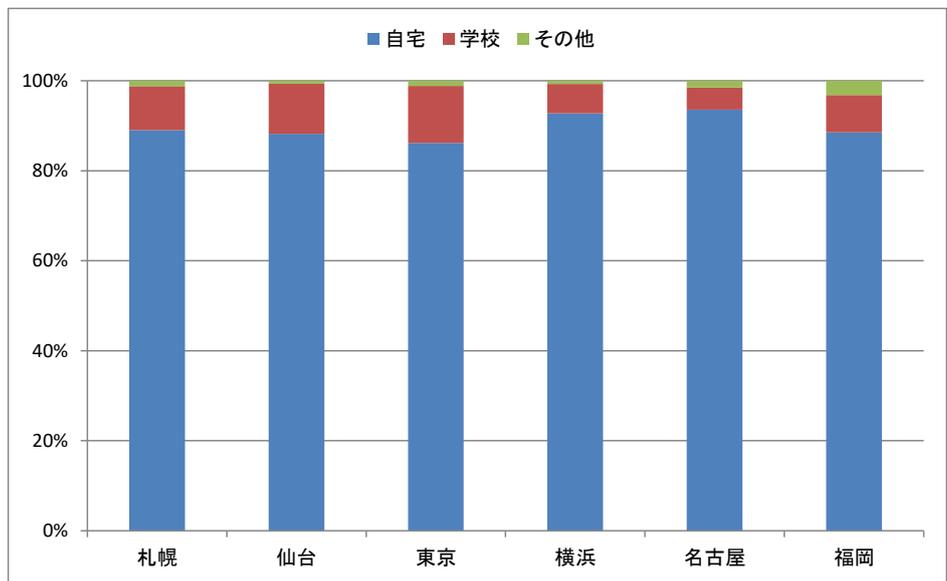
多くの生徒がスマホやタブレットなどインターネット環境で視聴していることが分かった。

地域特性では、仙台と名古屋の生徒がTV・ラジオ放送の利用と視聴会の利用が多くみられた。横浜の生徒はスマホよりパソコンを利用しているケースが多くみられた。一部のアンケートからは大きな画面で見た方が見やすいとの意見もあった。

コース別の特徴としては、マンガイラストコース・美術コースの生徒は普段デジタルイラストを描くためにパソコンを利用しているため、パソコンを利用している生徒が多い傾向があることがわかった。

● N H K 高校講座を見ている場所について

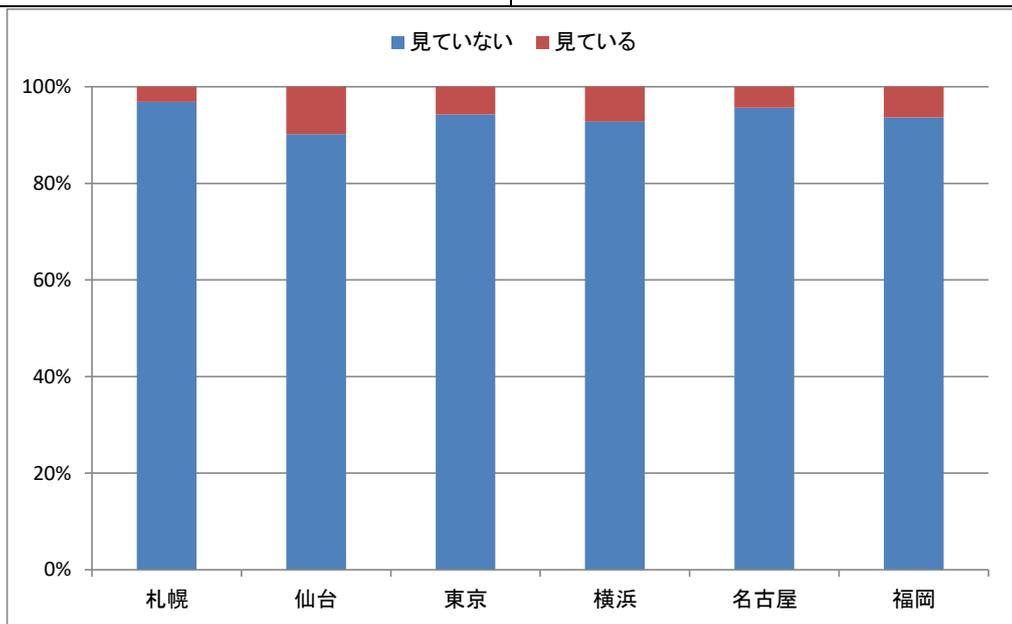
自宅	キャンパス	その他
1068 名	94 名	17 名
91%	8%	1%



自宅で視聴している生徒が大半であったが、キャンパスを利用している生徒については、自分の通信料では動画を見る容量が足りないため、キャンパスのW I F Iを利用して自分のスマホやタブレットを接続して利用したり、キャンパス内の共用のパソコンを利用していることが分かった。その他の意見として「電車で移動中」という意見もあり、時間を有効活用している生徒もいることが分かった。

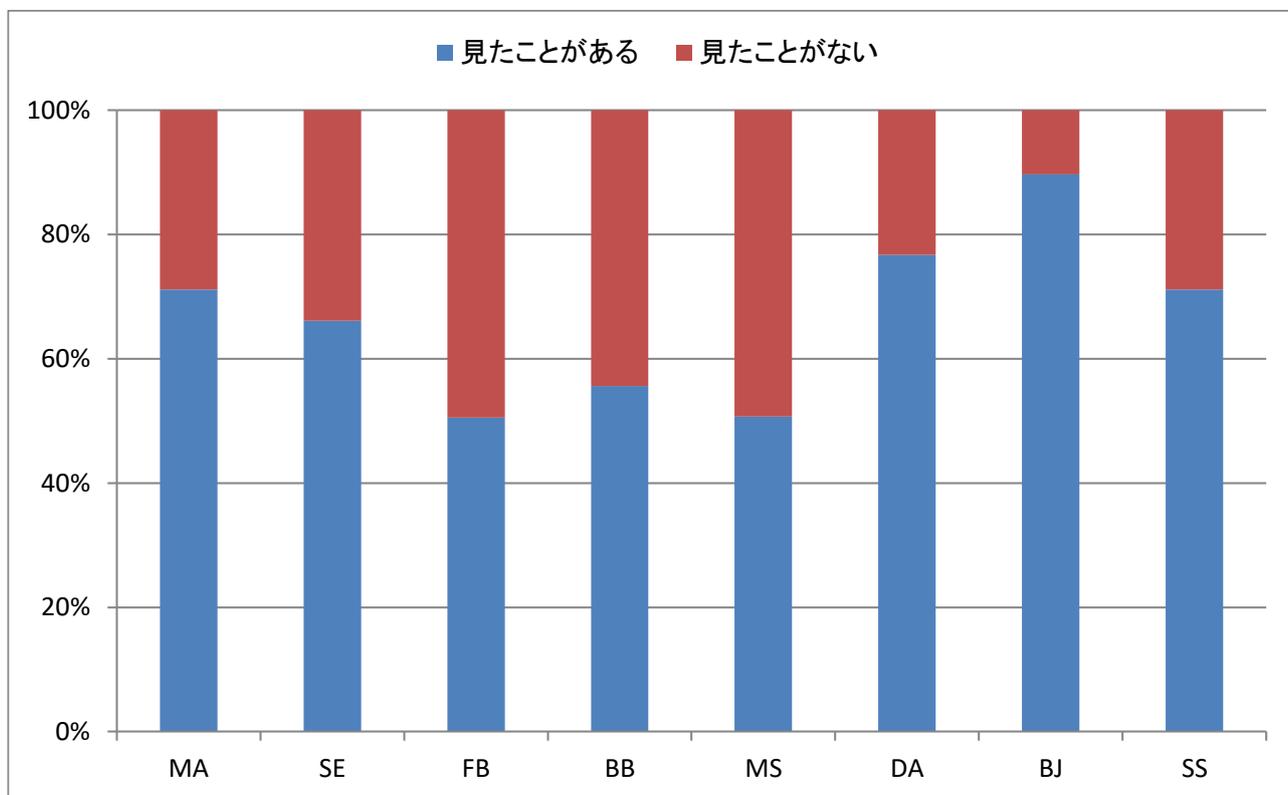
● N H K 高校講座の報告課題以外の放送について

見ていない	見ている
1117 名	65 名
95%	5%



●東京書籍 教科書準拠DVDについて DVDを見たことがあるかどうか

ある	ない
749名	430名
64%	36%



●DVDを見たことがない人について (430名)

どこで課題に取り組んでいるのか		
自宅	キャンパス	その他
350名	65名	9名
83%	15%	2%

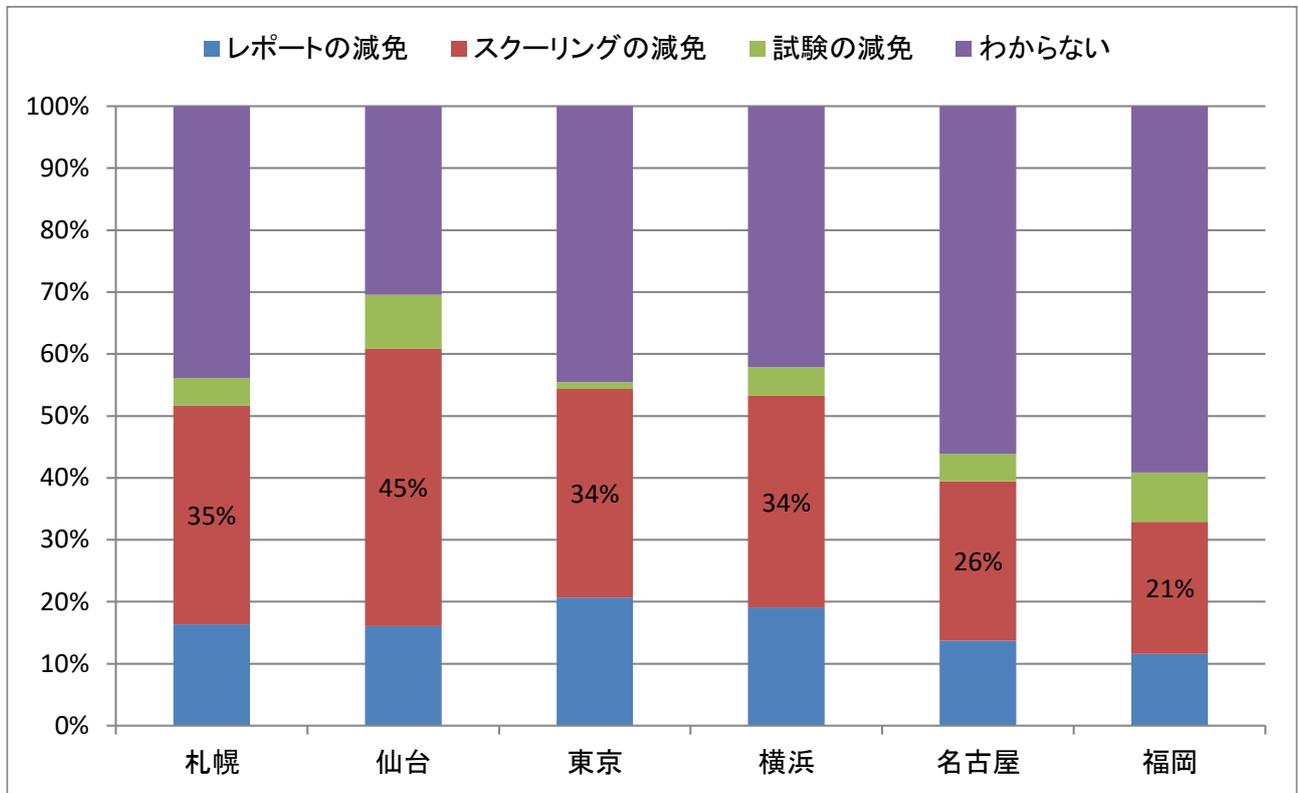
どのように視聴報告票を作成しているのか				
教科書の利用	ネットの検索	友人から	何も見ないで解く	その他
203名	167名	47名	8名	3名
47%	39%	11%	2%	1%

東京書籍の教科書準拠DVDを見たことがない生徒は、教科書やインターネットを利用して視聴票の作成をしていることが分かった。

放送を見て減免を行うためには、視聴を行ったログをしっかりと、個人ごとに視聴の進捗状況を記録できる機能が必要となる。

●メディアを使った放送視聴票が必要な理由について

レポートの減免	スクーリングの減免	試験の減免	わからない
195名	396名	66名	602名
16%	31%	5%	48%



生徒が放送視聴票の提出が必要な理由を理解していないことが分かった。年度当初に説明を行い、放送視聴票が必要な理由を説明しているにもかかわらず、大半の生徒が理解していないことが分かった。レポートなどと同じ、単位を修得するために提出が必要なのはわかっているが、提出が必要な理由をしっかりと理解している生徒は31%と低くなっており、わからない生徒は約半数近くいることがわかった。

2019年度は、放送視聴による減免を利用しないが本校の傾向では、放送視聴票が必要な理由について生徒に理解させる方法を再度検討する必要がある。

#### 4. 試験の復習として高校講座の利用

2019年度は放送視聴による減免を行わないため、研究内容を大幅に見直した。NHK 高校講座を復習用に利用してもらうために、定期試験（前・後期末試験）の1か月前に、QRコードを配布し、復習を促すことを行った。自学自習だけではなく、放送視聴のコンテンツの利用を行い、より学習効果が高くにあるように促した。配布したQRコードは苦手意識の高い数学と理科（地学基礎・生物基礎）の2教科について資料を家庭に送った。

##### 生徒に配布した復習用 QR コード

前期末試験に向け、返却されたレポートの復習を行いましょう。復習は、教科書を使ってレポートの復習を行うことや、NHK 高校講座を用いて復習することもできます。下記のQRコードを読み込むと NHK 高校講座を見ることができます。様々な教材を活用して学習しましょう。

レポート回数	タイトル	QRコード	内容
第1回	整式		高校の数学でよく出てくる単項式と多項式について理解を深めましょう。次数と係数の違いについても復習をしましょう。
	整式の加法と減法		どんな時に加法と減法ができるのか条件の確認をしましょう。また、減法については符号の間違いに注意しましょう。
	整式の乗法		指数法則や分配法則の確認をしましょう。乗法公式の前に必ず必要となる基本の分野です。
第2回	乗法公式		乗法公式の理解を深めましょう。 $( )^2$ の公式はどのようになっているのか再度確認しましょう。
	乗法公式をもっと知る		応用編の新しい乗法公式や、置換えを使った乗法公式の利用などいろいろな乗法公式を見てみましょう。

	因数分解		因数分解のキーワードは“くくる”です。共通な因数を見つけて、くくりだしてあげましょう。
	乗法公式を使った 因数分解		乗法公式 $\Leftrightarrow$ 因数分解です。 乗法公式を使って因数分解をしましょう。 ● <sup>2</sup> に注目してみましょう。
	因数分解を もっと知る		たすき掛けを利用した因数分解を理解しましょう。たすき掛けができるとどんな因数分解もできるようになります。
第 3 回	実数の分類		有理数と無理数の違いについて理解しましょう。ルートの意味と計算方法も復習しましょう。
	分母の有理化		ルートの計算を復習して、分母の有理化に挑戦しましょう。多項式の有理化は、乗法公式を利用することで有理化することができます。
	1 次方程式		次数が 1 の方程式です。左右の数式が同じになるように文字の数字を決めましょう。
	1 次不等式		不等式の意味をしっかりと理解して、どのようなときに不等号を使うのか考えましょう。



NHK 高校講座について、復習で利用しましたか		
	利用した	利用していない
前期末試験	68 名	917 名
	7%	93%
後期末試験	65 名	1382 名
	4%	96%

QR コード表をレポート返却時に郵送をしたが、実際に QR コード表を知らない生徒が多数存在した。レポート返却時は多くのものが郵送されており、次の試験に向けた勉強という意味合いを前面に押し出すことができなかった。

もう少し配る時期や内容について精査をして配布することができれば、結果が変わっていた可能性がある。

#### ●復習で利用した人に対する質問

学校で配布された QR コードを利用したかどうか		
	利用した	利用していない
前期末試験	41 名	26 名
	61%	39%
後期末試験	28 名	36 名
	44%	56%

どの放送を見ましたか				
	プリントすべて	苦手な分野	興味を持った	その他
前期末試験	26 名	23 名	16 名	3 名
	38%	34%	24%	4%
後期末試験	35 名	13 名	14 名	2 名
	55%	20%	22%	3%

復習で利用した生徒について前期末では 6 割の生徒が QR コードを利用しているが、後期末は 44% と少ない数字となった。しかし、QR コードを使わなくても生徒自身がいろいろな復習方法を見ていることが分かった。

見ている放送については、後期末ではプリントすべての講座を見ている生徒が多かった。今回は数学と理科の QR コードの配布となったが、苦手が多い理数系の科目ではなく、他の科目を配布した場合の結果に違いがあるのか今後の検討材料である。

●復習で利用していない人に対する質問

どのように復習をしたのか（重複可能）					
	教科書の利用	レポートの復習	対策授業	復習していない	その他
前期末試験	323名	686名	457名	147名	22名
	20%	42%	28%	9%	1%
後期末試験	405名	923名	644名	301名	30名
	18%	40%	28%	13%	1%

メディア動画を利用しない理由（重複可能）					
	教科書で勉強できる	動画が分かりにくい	見るのに時間がかかる	自分で勉強しない	その他
前期末試験	325名	94名	358名	140名	188名
	29%	9%	32%	13%	17%
後期末試験	440名	153名	549名	286名	248名
	26%	9%	33%	17%	15%

復習で利用していない生徒は、大半がレポートの復習を自分で行っていることが分かった。レポートが通信制教育の根幹であり、そのレポートを重要視して復習しているので満足のいく結果となった。次に多いのは、対策授業となった。北海道芸術高等学校は、各拠点で対策授業を行い、生徒が分からない点や苦手な分野について復習の授業を行っている。この授業に参加する生徒が多く、直接話を聞くことで理解することができることがうかがえる。

メディア動画を利用しない生徒についてアンケートを行ったところ一番多かった意見は見るのに時間がかかることであった。地区通研でも話があったが、QRコードに視聴時間を入れるなどの工夫をすることができればよかったが、研究年度は時間を入れることができなかった。また、先入観として時間がかかると思っている生徒も多数いた。その他の意見として、様々なコンテンツがあり分かりやすく解説しているものもたくさんインターネット上にあるという意見もあった。どのような内容なのかは追跡調査していないが、様々な動画が公開されているので、生徒自身がいろいろな情報を集め勉強していることが分かった。

復習方法 地域格差について（前期末試験）						
	札幌	仙台	東京池袋	横浜	名古屋	福岡
教科書	16%	23%	17%	20%		26%
レポート	39%	40%	41%	42%		51%
対策授業	36%	31%	30%	27%		6%

復習方法 地域格差について（後期末試験）						
	札幌	仙台	東京池袋	横浜	名古屋	福岡
教科書	16%	23%	15%	17%	15%	23%
レポート	38%	44%	41%	45%	36%	45%
対策授業	36%	30%	36%	28%	26%	9%

復習方法の地域格差を検証したが、前期末・後期末試験とも同じような傾向がみられた。仙台と福岡が教科書を利用して復習する人が多く、福岡については対策授業で復習する人の割合が低い傾向があった。逆に札幌については、対策授業を参加して復習をする傾向があった。

動画を利用しない理由 地域格差について（前期末試験）						
	札幌	仙台	東京池袋	横浜	名古屋	福岡
教科書の利用	33%	29%	26%	25%		29%
分かりにくい	7%	10%	6%	9%		10%
時間がかかる	28%	31%	41%	36%		32%

動画を利用しない理由 地域格差について（後期末試験）						
	札幌	仙台	東京池袋	横浜	名古屋	福岡
教科書の利用	32%	31%	20%	21%	24%	26%
分かりにくい	9%	10%	12%	12%	8%	7%
時間がかかる	26%	33%	46%	42%	28%	36%

動画を利用しない理由について、地域格差を見たところ東京と横浜で時間がかかるという意見が相対的に多かった。札幌と仙台については教科書で復習できるという意見が多く、動画に対する意識の違いがあるのかもしれない。

## 5. コースを学ぶ上の必要な教科について

自分の選んだコースで学んでおきたい教科についてアンケート調査を行った。

2018年夏・2019年夏・2019年冬の3回のアンケート調査を行った結果を記載する

コース名は以下の通り

MA：マンガ・イラスト

SE：声優

FB：ファッションビューティー

BB：美容師

MS：ミュージック

DA：ダンス

BJ：美術

SS：総合進学

### ●2018年夏の調査結果

	MA	SE	FB	BB	MS	DA	BJ	SS
国語	14%	26%	8%	11%	15%	8%	23%	9%
社会	10%	8%	3%	5%	6%	6%	14%	7%
数学	9%	7%	5%	7%	8%	7%	8%	17%
理科	7%	4%	2%	6%	3%	3%	3%	7%
英語	15%	19%	20%	17%	23%	28%	22%	16%
保健体育	4%	5%	1%	4%	4%	12%	5%	2%
家庭	5%	4%	6%	4%	5%	4%	5%	4%
情報	7%	6%	7%	11%	9%	5%	3%	3%
商業	8%	7%	13%	13%	8%	7%	6%	6%
書道	3%	3%	1%	1%	3%	3%	2%	1%

### ●2019年夏の調査結果

	MA	SE	FB	BB	MS	DA	BJ	SS
国語	14%	22%	0%	14%	16%	8%	16%	13%
社会	8%	7%	6%	4%	5%	5%	8%	7%
数学	10%	8%	12%	12%	7%	7%	6%	11%
理科	4%	4%	3%	5%	3%	5%	5%	4%
英語	14%	17%	22%	16%	25%	22%	15%	19%
保健体育	3%	4%	1%	3%	4%	13%	5%	2%
家庭	4%	4%	6%	4%	4%	8%	4%	4%
情報	5%	6%	15%	7%	7%	5%	7%	9%
商業	7%	6%	22%	9%	9%	3%	5%	6%
書道	2%	2%	4%	2%	0%	1%	4%	2%
美術	19%	7%	8%	4%	4%	3%	21%	2%
特になし	8%	13%	1%	20%	16%	20%	5%	19%

### ●2019年冬の調査結果

	MA	SE	FB	BB	MS	DA	BJ	SS
国語	13%	23%	7%	10%	16%	9%	14%	11%
社会	7%	7%	5%	5%	5%	6%	11%	6%
数学	8%	7%	8%	8%	8%	8%	8%	12%
理科	5%	4%	2%	5%	3%	1%	7%	3%
英語	13%	16%	17%	15%	20%	27%	12%	22%
保健体育	4%	6%	2%	3%	5%	9%	2%	3%
家庭	5%	6%	8%	4%	5%	7%	3%	5%
情報	6%	7%	9%	9%	7%	7%	7%	9%
商業	9%	8%	12%	13%	9%	5%	9%	9%
書道	3%	3%	2%	2%	1%	1%	7%	2%
美術	20%	7%	9%	4%	7%	4%	19%	5%
特になし	7%	6%	19%	23%	14%	15%	1%	13%

3回の調査結果について以下のとおりである

●マンガ・イラスト

美術・英語・国語が多かった。美術は基本的な画力の向上、英語と国語は漫画を描くうえで語彙力が必要であるという結果となった。

●声優

国語・英語が必要という結果となった。日本語を正しく使えるようになるために国語を必要とする意見が多かった。

●ファッションビューティー

英語・商業・情報が必要という結果となった。このコースは卒業後就職者が多く、働くために商業や情報の知識が重要と考えている生徒が多かった。美容師コースとの違いは数学より情報に趣を置いている傾向があった。ファッションに関して最新の情報などを収集するため情報が多くなっているように感じた

●美容師

英語・商業・数学が必要という結果となった。卒業後は美容師として働くのが大半のため、接客で英語が必要なこと、売上げの計算などで商業が必要。また、薬品の計算などで数学が必要になり、具体的に社会に出た時を意識した回答となった。

●ミュージック

英語・国語が多い結果となった。ミュージックは作詞作曲があり、語学力が必要になることが多いため、このような結果となった。

●ダンス

英語が多い結果となった。ダンスコースは将来海外でダンスをしたいという傾向が大きく、英語をしっかりと話せるようになりたい生徒が多かった。また、保健体育も多く身体づくりや筋肉について興味を持っている生徒が多いことが分かった

●美術

美術・国語に興味を持っている生徒が多かった。美術の勉強をしたい生徒のため美術が多くなっているが割合は予想以上に少なかった。社会に興味のある生徒が多くいて、歴史や地理など風景画を描くために歴史や地形的なことなどを見る力が必要であるという傾向があった。

●総合進学

苦手な教科を上げる生徒が多く、数学や英語が多い傾向があった

## 6. 結果と考察

最後に、今回の研究を通してほとんどの生徒がスマホやタブレット端末を利用して NHK 高校講座などを見ていることが分かった。また、電車など移動時間などにも短いコンテンツを見ている生徒も少ないが、いることが分かった。

放送視聴による減免を行っていたが、生徒に説明を行っていたが実際に減免の理由を分かっている生徒が少ないことが分かった。なぜ必要なのか？ではなく与えられた課題を行っている生徒が本校には多く存在していることが分かった。通信制の高校ではどうしても対面での時間が少ないことが多く、意思疎通をしっかりと行い具体的に必要な理由などを説明することが大事である。

試験前に復習のツールとして NHK 高校講座の QR コードを配布した。結果として復習のツールに誘導することができなかった。配布方法や周知方法について郵送で送るだけでは見てもらうことが難しかった。コンテンツは素晴らしくても見てもらうために学校としてどのような方法があるのか再度考え、周知方法を検討する必要がある。面接授業での周知や動画コンテンツと自己学習の理解度の違いなどもう少し方法を検討する必要がある。

コースを学ぶ上で必要な教科については、顕著な傾向がみられた。自分が学びたいコースに関連した教科を学習したいという意志が強かったので、学びたい意欲を向上させるような仕掛けをコースごとに行うことができればより効果的な学習ができると思う。

本研究に協力いただいた全国高等学校通信制教育研究会の皆さま、放送教育委員の先生方にはいろいろなアドバイスをいただき、本研究を行うことができました。

今後も本校では、放送教育を効果的に利用するために継続的に調査を行っていきたいと思います。